



「受けていますか？精密検査」

がん検診で精密検査が必要と判定されたのは、「がんの疑いを含め異常（病気）がありそう」と判断されたということです。より詳しい検査を行い、本当に異常があるかどうかを調べる必要があります。

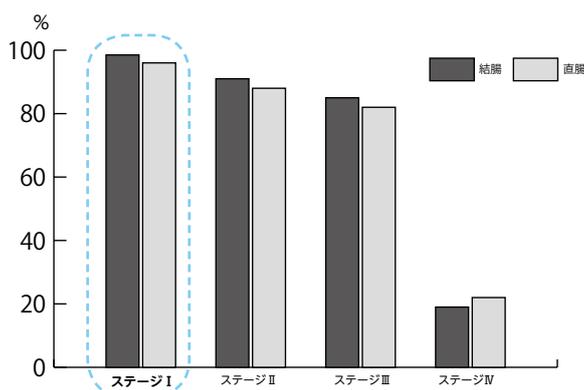
行方市の精密検査受診率は？？（平成29年度 行方市がん検診精密検査受診率）

	行方市	県平均
肺がん検診	86.4%	87.9%
胃がん検診	76.4%	86.4%
大腸がん検診	68.8%	77.3%
乳がん検診	93.2%	92.9%
子宮頸がん	92.5%	92.2%

行方市の精密検査受診率は、肺がん・胃がん・大腸がん検診において、県平均よりも低い状況です。特に、「**大腸がん**」の精密検査受診率が低くなっています。

※職場健診や個人の人間ドック等は含みません。
出典：「茨城県各がん検診実施指針」に基づく
各がん検診実施年報（平成29年度実績）より

大腸がんの進行度による5年生存率の違い



出典：がんの統計'17「全国がん（成人病）センター協議会加盟施設における5年生存率（2007～2009年診断例）」

がん検診とは、無症状のうちに「がんを早期に発見し、適切な治療を行う」ためのものです。

大腸がんは早期発見・早期治療で、95%以上が治り、身体的にも経済的にも負担がずっと軽くなります。「たまたまだろう」、「自分は大丈夫」、「痔だから」と、自分で判断しないで、必ず精密検査を受けましょう。

「症状がない」、「健康だから」といった理由で精密検査を受けない場合にはがん検診で見つかるはずのがんを放置してしまうこととなります。

精密検査が必要と判定されたら必ず精密検査を受けましょう。